

平成24年に東北大學の大
学院において「臨床宗教師」
の養成講座が始まり、その
翌年に第4期生として受講
しました。内容もさること
ながら、山口県から東北に
通うということにちゅううち
よしましたが、受講の要項
に書いてありました、この
講座が始まるきっかけとな

東北で養成講座

に思いが大きくなり東北へ
通う決断をしました。

そこでは、宗教宗派の垣根を越えて協力し合い、布教や勧説を目的とせず、病院などの公共空間にて公共的な役割を果たす宗教者の育成を目的とした研修がありました。キリスト教や神道、その他多くの違う宗教の方々と一緒に対話を通じて研修を受けることで、

難しいかという事を知りました。実習先はそれぞれで私は岐阜県大垣市の病院にて訪問看護に宗教者として同行するという事などをさせて頂きました。このようなことを経験することで自分たちにはこんな使い道も

もちろん表に出されない
だけで、そういう活動を当
たり前のようになさってこ
られた、または現在なさっ

次回は桝野さんの紹介で下松市の坂田祐次さんが担当します。

私は光市の室積といふところで僧侶を勤めておりま
す。それまで自分のことは
一僧侶、としか思っておらず「宗教者」という意識は
恥ずかしながら無かったの
ですが、他の人から見ると
なるほどそういう事になる
のかと改めて気付かせていい
ただきました。当然先の問
いかけにも自分なりの思い
はあったものの、はつきり
と答えることはできません
でした。

一現在病院では体や病気以外の悩みを話す人が増えている。それは本来宗教が受け持つ分野ではないのか。あなたはそのことについて、宗教者としてどう思うのか。知り合いの医師のこの言葉が私を東北へと向かわせました。

この医師の故・畠部健先生の「宗教者とは死といふ時闇に降りていく道しるべを示す専門家ではないのか」という言葉を見た時、冒頭に申しましたが頭を上げて自分にも何か担えることがあるのでは、と口増し

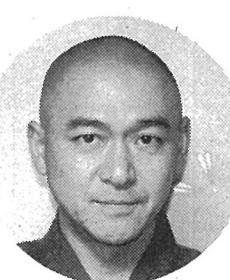
改めて自分の立ち位置を確認することができ、違いを認めた上ででの学び合いといふことがどうしたことなのか、ということを体験させた頃きました。また、公共交通空間に宗教者がそのまま入って活動することがいかに

宗教者と公共空間

耳を傾け、時に寄り添う

樹野 統胤

副住職・臨床宗教的



現在はこの経営で、一箇月に
中央病院の緩和ケア病棟
と、周東町のグループホー
ムにボランティアとして通
わせて頂いています。傾聴

選択肢の一つに

あるのかと他人事のように
感心しました。公共空間と
一口に言いましても多くの
現場があります。その中に
入り、対象者を絞らず耳を
傾け悲嘆や悩みに向き合
い、時に寄り添い時に共に
苦悩する、そういう存在が
臨床宗教師です。

て存在できればと考えていました。そのためには広く使って頂き、選んで頂ける公共空間に出入りできることが大切です。

たたそは申しましても
基盤は私で申せば僧侶であ
りお寺で、檀家さんや地域
のための宗教者です。どの
宗教宗派でもその部分を疎
かにしての公共性は成り立
たないのではと思います。
そういう意味ではバランス
が難しいなと思うから
も、するべきことははつき
りしていますので、少しず
つお役にたてるように進ん
でまいりうと思います。

ますの・といん 光市
出身。同市室積にある平安
中期創建の古寺、臨濟宗普
賢寺の副住職で臨床宗教
師。40歳。

次回は榎野さんの紹介で下松市の坂田祐次さんが担当します。

ますの・といん 光市
出身。同市室積にある平安
中期創建の古寺、臨濟宗普
賢寺の副住職で臨床宗教
師。40歳。

たたそは申しましても
基盤は私で申せば僧侶であ
りお寺で、檀家さんや地域
のための宗教者です。どの
宗教宗派でもその部分を疎
かにしての公共性は成り立
たないのではと思います。
そういう意味ではバランス
が難しいなと思うから
も、するべきことははつき
りしていますので、少しず
つお役にたてるように進ん
でまいりうと思います。

ておられる宗教の方々はたくさんおられるでしょう。ですからこの臨床宗教師こそが云々、などと言つつもりは毛頭ございません。いさきか消極的に聞こえるかもしれません、臨床教師だからをするばかりへ行く、ではなくて皆さんが選ぶものの一つとして存在できればと考えています。そのためには広く知つて頂き、選んで頂ける公共空間に出入りできることが大切です。